

平成31年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる”ころ・技・からだ”が育つ学校 -①もの創りの”ころ”と”技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。-
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 基本的生活習慣の確立と向上を推進する。欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 個々の生徒に応じた進路指導を充実する。生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。小学校との交流及び地域の行事等への参加。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

年度 学 校 自 己 評 価				年度評価(2月7日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	○授業に真剣に取り組む姿勢が不足し、欠点を持つ生徒が多い。解る授業を心がけ、生徒の学習意欲を高め真剣に授業に参加することができる環境を作ることが課題である。 ○全校で資格取得に取り組む姿勢にやや欠けている。体制を作る。昨年度以上に資格取得表彰者数の増加を目指す。また、資格取得状況を把握し、次の資格取得を目指しやすくなるシステムの改善と整備に取り組む。	授業改善・学力向上 ○生徒の個性を生かす授業展開を実践する。補習体制の充実を目指した方法を立案する。	①基礎学力向上のための取り組みに加え、放課後の補習や自主学習のために実習室の有効利用を検討し実践する。生徒が自ら学習に取り組む意欲を喚起し、自ら学習できる環境を整える。また、生徒が職員に相談しやすい環境について検討する。	①生徒の個性に合った学力向上のための取り組みを実践し、1年間でどのくらい成長することができたかを学びの基礎診断テスト等のデータから調べて、大きな伸びを示す生徒が10%以上になることを目標にする。欠点数や成績不振者数を前年度より、更に5%減少させる。	①生徒の欠点数が前年度より12%減少となった。成績不振の割合が減少したことを示すので基礎学力向上を含めた全体的な成績の底上げを達成することができた。	A
		○資格取得の意欲喚起と同時に、学校全体で資格取得に取り組む体制を確立する。(目標を持たせる)	①各学期ごとに、生徒に資格取得状況を把握できるような資料を作り、生徒が新たな資格取得に向けて意欲的に取り組むようにする。保護者にも情報が伝わるような取り組みを立案実施する。	①職員や保護者が資格取得状況を把握できるシステムを構築し、活用する機会を検討する。個の生徒に応じた情報発信ができるようにする。高校生専門資格等取得表彰者数を昨年度より更に5%以上増加させる。	①校務支援システムを利用して担当による入力を開始した結果、担任をはじめ職員が生徒一人ひとりの資格取得状況を確認できるようになり資格取得を促しやすくなった。	B
2	○近年、遅刻数の減少を目標に各学年と連携を図り、継続した指導を行ってきた。昨年度の遅刻総数は1468回であり、一昨年度比15%減少した。今年度も引き続き指導を徹底し、遅刻数の減少に取り組むことが必要である。遅刻カードについては、今年度も継続して実施する。 ○退学および進路変更をする生徒は、1年生が占める割合が多い。そのため、入学直後より学年団を中心に学校全体で共通理解のもと、教職員全員できめ細かい指導を実施する必要がある。	生徒指導 ○基本的生活習慣確立のための遅刻指導・挨拶指導を重点的に継続する。	①遅刻指導を年間10週以上実施する。(遅刻カードの活用) ②挨拶指導、登下校指導、巡回指導を年間10週以上実施する。 ③自転車の交通安全教室(乗り方指導・自転車点検)を実施する。	①2年続けて減少している遅刻数の現状を、維持。 ②挨拶できる生徒、身だしなみが整っている生徒が増加。 ③自転車をはじめとする交通事故が減少。 ④生徒アンケートで『久喜工高は遅刻防止指導に、計画的に取り組んでいる』と回答した生徒が90%以上。	①遅刻総数は、2学期末現在1042で昨年同時期比8%減少した。 ②登下校指導を年間11週実施し、挨拶・身だしなみ・交通マナー等を指導した。 ③交通事故は、自転車5件、バイク1件(取得申請済者)で昨年度より2件増加した。 ④生徒アンケートで『久喜工高は遅刻防止指導に、計画的に取り組んでいる』と回答した生徒は82%であった。	B
		○進路変更、退学者を出さない、問題行動を起こさせない指導を充実させる。	①身だしなみ指導を年間5回以上実施する。 ②生徒対象のいじめアンケートを実施する。 ③生徒対象のいじめ・SNS講習会を実施する。 ④教職員対象の研修会(特別支援・発達障害に関する研修)を実施する。	①進路変更、退学者数が前年度比5%以上減少。 ②問題行動(指導件数)が前年度比5%以上減少。 ③生徒アンケートで『久喜工高は服装・頭髪などにきちんと指導を行っている』と回答した生徒が90%以上。 ④教職員対象の研修会の内容が充実し、必要な知識・求められる資質が向上。	①進路変更・退学者数は、2学期末現在3名で昨年度同時期比83%減少。生徒指導関連の進路変更はなし。 ②問題行動(指導件数)は、2学期末現在9件で前年度同時期比50%減少(指導人数は59%減少)した。 ③生徒アンケートで『久喜工高は服装・頭髪などにきちんと指導を行っている』と回答した生徒は95%。 ④教職員対象の研修会では、中学校の通級指導教室担当教諭を講師に招き、特別支援・発達障害に関する教職員の知識・資質が向上した。	A
3	○進路未定者を出さない為に様々な指導を継続して行っている。その結果、8年連続就職率・進学率100%を達成している。しかし、進路意識の希薄に起因した、就職や進学共に内定に時間のかかる生徒も一部出てきている。そのため、入学当初からの学年と協力した計画的な進路指導を行うことが課題である。	進路指導 ○就職率・進学率100%を実現する。	①企業との情報交換会へ積極的に参加して情報収集を推進する。 ②進路指導部内での情報共有を強化する。 ③進路指導部と3学年との連携を密にする。	①就職率・進学率100%を早期に実現。 ②生徒アンケートで『進路決定にむけて、生徒の希望や保護者の期待に応えている』と回答した生徒を80%以上を達成	就職決定率99%進学決定率94%を早期に達成し生徒各自が望む進路実現を果たすことができた。 ①アンケートで『進路決定にむけて、生徒の希望や保護者の期待に応えている』と回答した生徒が91%で目標を達成。	A
		○4年連続で就職試験1回目の合格者率を80%以上を継続させる。	①インターンシップ受け入れ企業数を増やす。 ②求人企業との面談の質を高めて生徒へ適切な情報提供を行う。 ③効果的なタイミングで面接指導を実施する。	①求人件数を維持して生徒の選択肢を確保。 ②来校求人数を5%増やし、生徒に適切に情報の提供。 ③生徒個々に5回以上の面接練習を実施。	①求人件数昨年約2100件、今年約2300で10%以上の増加。 ②来校求人数も増加し5%以上の目標を達成。 ③面接練習の機会設けて、十分な回数を実施して、就職試験1回目の合格者率85.0%で目標を達成することができた。	A
4	○新設された広報部が生徒募集行事である学校説明会や体験入学等を企画、運営を行っている。平成30年度入試倍率も定員を満たすことができたが、先行きは不透明である。本校の日頃の教育活動の特色である実習を中心としたカリキュラムや進路指導などの結果を中学生、保護者、及びに地域住民に対して、いろいろな手段により、継続的に幅広く発信していく必要がある。また、地域の各種イベント・行事等に積極的に参加し、情報発信すると共に、地域に根ざした高校として貢献していく必要がある。	開かれた工業高校 ○情報発信を積極的に行い、本校への理解を深めていただくと共に、入学志願者を確保する。	①学校のHPや学校案内、チラシを活用し、日頃の教育活動の情報を発信する。 ②学校PR資料「久喜工だより」を各学期ごとに作成し、中学生に向けて配布する。 ③中学校への出前授業を積極的に実施する。 ④学校説明会を各回ごとにテーマを決めて計画的に実施する。	①学校のHPを頻繁に更新し、HPへのアクセス回数が昨年度より増加。 ②学校PR資料「久喜工だより」を各学期ごとに作成し、中学生に向けて配布。 ③中学校への出前授業を全学科参加により、積極的に実施。 ④学校説明会を各回ごとにテーマを決めて計画的に実施。	①学校内外へ効果的に情報を発信し学校理解に努め、地域に根付いた工業高校としての認知度を高めた。 ②学校HP更新回数140回行い、アクセス数も昨年度比10%増の3万回に増加した。 ③学校PR資料(久喜工だより)を年間4回発行。 ④全学科で中学校への出前授業を計画的に実施。 ⑤学校説明会を各回ごとにテーマを設けて計画的に実施できた。	A
		○様々なイベント・行事に積極的に参加し、地域に根ざした高校として貢献していく。	①地域のイベント・行事および、小中学校や児童センターとの交流事業を継続して実施し、年間15回以上の対外的な活動を実施する。	①地域のイベント・行事および、小中学校や児童センターとの交流事業を継続して実施し、年間15回以上の活動を実施。 ②生徒アンケートで『久喜工は、地域から良い学校だと評価されている』と回答した生徒が70%以上。	①地域行事参加など対外的な活動を15回実施した。 ②アンケートで『久喜工高は、地域からいい学校だと評価されている』と回答した生徒は70%であった。	B

学校関係者評価	実施日 令和2年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	○基礎学力の向上のためには、環境づくりが大事である。勉強をしやすい環境づくりを心掛けてください。 ○成績の二極化が進み指導が難しいと考えられますが、引き続き、授業改善を行い、基礎学力の向上に努めてほしい。 ○生徒が自分で取得した資格を把握できる資料は素晴らしいと思います。
	○企業が求める人材は、何事にも真面目に取り組む、遅刻・欠席が少ない「基本的生活習慣の確立」している人材です。学校の指導に期待しています。 ○近隣からの評判も、昔に比べて生徒が明るく挨拶をしてくれる。学校の指導の成果だと思います。また、定期的なごみ拾いも近所の住人にとって感謝です。 ○生徒はいずれ社会人になるため学校の指導が厳しいのは当然で、保護者としては現状より更に厳しくしてもらいたいと感じています。
	○毎年、就職および進学決定率が良好なのは、生徒と先生方の信頼関係ができていること、先生方の情報共有や普段の努力が結果として表れている。 ○生徒の進路実現は、家庭の力も必要ですが、先生との相談できる環境が整備されているからだと思います。 ○就職試験の結果が良好なのはインターンシップで進路意識が高まっているからだと思います。今後は、離職率について改善してほしい。
	○広報部を中心にHPの更新やPR資料の発行など学校の魅力発信に尽力しているのがわかる。 ○中学校に工業高校の魅力が伝わっていない感じがする。卒業生と保護者は、入学してとても良かったと思っています。工業高校は施設設備も整っているとともに、進路も充実していることを知ってもらいたい。 ○大学では、最近、学校の理解を深めてもらうために、体験型の説明会が増えている。また、普段の学校を見てもらう機会を設けるのも良いと思います。